

日本臨床発達心理士会千葉支部 2025 年度東総地域研修会のお知らせ

日時 2025 年 7 月 6 日(日) 13 時 00 分～16 時 30 分 (12 時 30 分受付開始)

会場 匝瑳市 市民ふれあいセンター・ 2F 視聴覚室。対面形式で実施。

千葉県匝瑳市八日市場ハ 793 番地 35 ☎ 0479-73-0753 無料駐車場有

JR 総武本線 八日市場駅より東へ約 1.5 km。

(駅前からコミュニティバス、タクシーも利用できます。)

千葉支部会員向け研修会、研修ポイント1ポイント(申請予定)。

定員約 20 名、事前参加申込が必要です。参加費 500 円(当日集金)

テーマ こだわりがある子どもの理解と支援

～園や学校へのコンサルテーションのあり方について考える～

講師 荒木 誠 先生 (千葉県立東金特別支援学校)

教諭(教務主任)・臨床発達心理士・公認心理師・学校心理士

特別支援学校における特別支援教育地域支援部の一員として、幼児児童生徒と保護者、学校職員への助言・支援を行っている。また、千葉県総合教育センターの研修会講師や、幼児教育研修会講師として活躍し、地域の特別支援教育の推進に貢献している。

要旨

千葉県では、特別支援教育の更なる充実を図るため、令和4年3月に「第3次千葉県特別支援教育推進基本計画」及び「第3次県立特別支援学校整備計画」が策定されました。計画期間は、令和13年度までの10年間です。重点項目の1つとして、幼児期から成人期までの切れ目のない支援体制の充実がうたわれています。個に応じた形での「自立と社会参加」は、特別支援教育の目標であり、臨床発達心理士会としての職務を遂行するにあたり、常に意識していかななくてはならない目標です。

本研修会では、「こだわりがある子どもの理解と支援」に焦点をあて、園や学校へのコンサルテーションのあり方について考えていきます。保育者や教師にこだわりへのアプローチについて、どの様に助言することが親子関係を良い方向に向け、子どものより良い成長を助けるのかを明らかにしていきます。また、地域のリソースを生かした支援の方向性についても考えていきます。

○参加方法等

◆千葉支部会員向け研修会(千葉支部準会員も参加可)。他支部からの参加はできません。

申込受付期間 2025 年 6 月 8 日(日)より 6 月 22 日(日)まで。参加する方は、千葉支部メールアドレスに氏名、会員番号(8桁)を明記してメールで申し込んでください(お知らせの一斉メールに返信でも可)。jacdpchiba@yahoo.co.jp

◆研修会資料は当日配布いたします。

◆参加費(500 円)は、研修会当日受付でお支払いください。

◆コミュニティバスを利用予定の方は、時間等連絡させていただきますので、申し込み時のメールにその旨記載ください。

◆昼食は、八日市場駅周辺の飲食店、または会場近くのコンビニエンスストアをご利用ください。

◆(注意)2025 年度の会費が未納の方は参加できません。

千葉支部 2025 年度東総地域研修会 報告
2025 年 7 月 6 日(日)13 時～16 時 30 分
対面による研修会 参加者 16 名

こだわりがある子どもの理解と支援

～園や学校へのコンサルテーションのあり方について考える～

【講師】

荒木 誠 氏（千葉県立東金特別支援学校教諭、
臨床発達心理士・公認心理師・学校心理士）

東総地域研修会は、地域のニーズに特化したテーマで年 1 回の研修を行っております。千葉支部の発足と同時に始まり、コロナ禍の中止の後再開、16 回目を迎えました。

現在、東総地域会員の多くが、園や学校へのコンサルテーションを行っております。園や学校の先生方が、見通しをもって前向きに子どもの指導・支援ができるように、私たち臨床発達心理士は何をどこまで伝え、何を一緒に考えていくのか模索する毎日です。今回、より良いコンサルテーションのあり方について、荒木先生自身の分かりやすく説得力のあるご講話でご示唆いただきました。以下、その概要を紹介いたします。

学校コンサルテーションの内容は多岐に渡ります。子どもたちの健やかな成長を願う先生方の気持ちに共感し、現在の課題を共有した上で次のような働きかけを行います。①知識の提供、②精神的な支え、③新しい視点の提示、④ネットワーキングの促進などです。今回は、発達障害の可能性のある子どもの中で、ASD と ADHD の可能性のある子どもの例を中心に、何を伝え（どのような困難さがあるか・どのような特性があるか 等）、何に気づいてもらい（いろいろな要因が絡み合っていること・二次障害が起きやすいこと 等）、どんな取り組みを提案するのか（ユニバーサルデザインの視点に立った支援・得意な力を活用した支援・特性に配慮した環境調整 等）を具体的に示していただきました。また、保護者への支援のあり方の提案として、「共感し、一緒に考え、気づきを促す」という伴奏型支援についてお話いただきました。

講話の後半は、エピソードをもとに演習形式で、子どもの理解と支援の方法についてどう伝えるかを確かめていきました。認知したことをどのように遂行するかという実行機能のうち「抑制・切り替え・プランニング」に焦点をあてて、「子どもの中で何が起きているかを考える」というキーワードをもとに、子どもの表れをどのように理解して、どう支援していくのかを考えました。コンサルティである先生方と共に考えることがとても効果的だと実感させていただきました。また、危機介入的なコンサルテーションはもちろんのこと、予防的コンサルテーションの重要性についても気づかせていただきました。

終盤 60 分間程は、「こだわり・連携・コンサルテーション」をキーワードに情報交換会

を行いました。

「保護者と先生方の認知のずれをどのようにして埋めていくか？」という話題では、先生方が保護者に伝える内容についてのアドバイスが有効であるという提案がありました。具体的には、事実があるということを示し具体的な場面でのエピソードを伝えてもらう、事実に対してこうしたらできましたということ伝えてもらう等のご意見をいただきました。具体的な事実をすり合わせていくことで分かり合える。根気よく前向きに向き合っていくことの有効性についても話し合われました。

また、「校（園）内の立場が違う職員同士の連携を高めるためにはどうすれば良いか。」という話題に対しては、今回研修した「子どもの中で何が起きているかを考える」ということを話し合い、背景を捉えて対応を考え実践していただくことで、特別支援的な視点が更に浸透し連携が深まるのではないかという意見をいただきました。信頼関係を得られるよう根気よく関わり伝えていくことが大切であることを確認することができました。

本研修会では、私たち臨床発達心理士が子どもたちの健やかな成長のために、どのように先生方と一緒に考え支援すべきかについて考える、学びの多い研修会となりました。

（報告 大槻美智子）